

「大学院教育における教科指導力育成の取り組みの方法と その成果について学ぶ」（教科指導力高度化演習公開報告会）を聴いて

理科教育講座（生物）・中村依子

1. 概要

「教科指導力高度化演習」は、各領域の大学院生が附属校や学外の学校で授業実践を行い、その成果を発表する演習である。ここではFD活動（FD研修会等）の教科指導力高度化演習報告会について報告する。

社会科教育領域は留学生とともに附属校で国際的な教育実践的研究を行っていた。なぜ、少人数の児童しか集まらなかったのかが疑問だったが、英語を基本言語としており、研究レベルの高さを感じた。

理科教育領域は、最近の理系教育の動向を捉えた教科横断的な実践を行っていた。歴史や文化的な要素も取り入れており、教科横断的の学びは児童・生徒に総合的な学びを与え、教育効果は高いと考えられる。しかし、質疑応答で社会的な要素の質問に明確に答えられなかった様子から、教える側は専門分野と異なる教科を教えることになるため、教科間の連携を密にする必要があると考えられる。

数学教育領域は、数学を身近な生活の場面と結び付けた授業プログラムを考案し実践していた。私は日頃から、数学は「なぜ、数学を学ぶのか」、「数学は生活の何に役に立つのか」という疑問を解決するような、より生活と結び付ける教育を行えば、児童・生徒は数学をより意欲的に学ぶのではないかと考えていたため、それが数学自ら実践していたことは大変興味深かった。

音楽教育領域はミュージカルを取り入れた実践を行っていた。12月末に学内の南加記念ホールで発表会を行っており、その成果に興味があったので、参観した。成果は期待以上のもので、多くの観客が来ており、一研究が学内、ひいては地域の活性化に結びついているのを見て素晴らしいと思った。

家政教育領域は、授業では通常では取り扱わない性的マイノリティについて、すでに授業実践を行い検証していた。発表していた学生は学部のとくに所属していた研究室とは異

なる研究室に異動するほど、その研究テーマに興味を持っているということを目にした。すでに授業実践を行い、性的マイノリティの取り扱いについては非常にデリケートな問題であるということを知り、次の課題を考え始めていた。自分がやりたいという思いは、研究テーマに意欲的に取り組む原動力になるということを知り、改めて教えられた。

保健体育領域は特別支援学校と連携した体育の授業実践を行っていた。運動会を企画し、競技の指導だけでなく、競技の審判や応援などの支える活動についても指導していた。特別支援で学ぶ児童や生徒に対する指導は、健常者や年配者の指導にも通じるところが多くあると感じ、スポーツを生涯スポーツとして広い視野で取り組む姿勢に共感した。

2. 総括

教科指導力高度化演習は、教育学部の大学院生の実践的研究の中間成果報告会のような講義であるので、教育学部全体の研究について学びたいという思いから、毎年のように参加してきた。私は今年度から初めて大学院生を指導することになったため、指導する視点も持って今年度の報告会を聴いた。

今回のFDでは、授業実践だけではなく、ミュージカルや運動会など、多くの人と連携した活動への取り組みについて知ることができた。数少ない学生ですら意欲的に研究に取り組むよう指導するのに苦労しているので、より多くの人に一緒に研究に取り組んでもらえるようにするにはどうしたら良いのか考えさせられた。報告会でも質問して学べたが、先生方にも伺い、ご教示いただきたいと思った。今後は、質疑応答において英語で質問できるように英語に触れる機会を増やし、英語力を向上させたい。また、教育的見解から提言できるように、学生の教材研究や発表の場により多く参加したいと思う。講義・実習に教材研究的要素も導入していきたい。